

岐大通 2011



2011 J.League Division2 第3節 サガン鳥栖戦

10/30(日) 19:00~ @岐阜メモリアルセンター長良川競技場

試合終了直後に無言でメインスタンドの観客が帰っていく様子は、しょうもない映画が終わった映画館のようだった 岐阜 1-3北九州【第7節】

東日本大震災の影響で、15日間5試合の過密日程となった10月後半のJ2リーグ。ホーム横浜FC戦で劇的な勝利を収めたものの、アウェイ2連戦を連敗し、4試合目はホームで北九州戦。10月の1ヶ月間だけで、天皇杯を合わせて対戦は3回目だ。確かに今季の北九州は好調だが、ウチと圧倒的な実力差があるとは思えない。イチローでなくとも「同じ相手に3連敗はプライドが許さない」と言いたくなるのもものだ。しかも、前節の湘南戦では大量7失点を喫してしまい、流石にチームも危機感を感じている...のだと思うのだが、それで入れ替えてきたスタメンには(個人的には)不安がよぎった。

確かに、「あの」酷すぎた前節よりは、動きは良くなっていったと思う。気合いを入れて(?)丸坊主にしてきた新井が中盤で積極的に動いて、北九州の好きなようにはやらせていなかった。攻撃も積極的だった。しかし...それは「前節と比較すれば」の話、だった。またしても早い時間帯の前半10分に、ゴール前は4対4で人数がいらない訳でもなかったのに、ゴール前中央に固まっていたDF陣の頭上を越えたクロスを手で決めて、先制点を献上。しかも、これが北九州のファーストシュートだった...「またか」という気持ちがスタジアム中に溢れたのか、この時のスタジアムからは(驚くべきことに)溜息も悲鳴も上がらなかった。その淡々とした雰囲気、逆にチームへの強烈な抗議の現れと感じられたのは、僕の思い込みだったのだろうか。その後、押谷が、佐藤が、それぞれ決定機を迎えるが、どちらも決めきることが出来ない。そのまま淡々と試合時間は過ぎてゆき、前半はシュート8本を撃ちながら無得点で前半終了。

そして後半当初は、前半の流れを掴んだまま、岐阜が攻め込む時間帯が続く。ところが後半15分、カウンターからDFの最終ライン中央にぽっかりと空いていたスペースにパスを通され、抜け出した北九州MF木村がGK川浪と1対1になり、あまりに痛すぎる2失点目。正直、この失点に僕は自分の目を疑った。どうして、あんな大きなスペースがDF最終ラインの中央に空いているんだ? どうして、自分たちが攻め込んでからって、誰も前線で張ってる相手FWをマークしていないんだ? どうして、抜かれたんならセンターサークルからゴール前まで必死に走って追いつこうとしないんだ? FC岐阜の守備の意識が統一されておらず、混乱して酷い状況になっているのは前節とさほど変わらなかった。湘南よりも北九州には決定機を作り出す力が足りないから、今節は失点が少ないだけなのだ...

6分後には、今度は見事なミドルをゴール隅に決められ、3失点。確かに撃った相手FWを誉めるべきシュートだったが、ウチのDF陣のチェックが甘くて、ほぼフリーで撃たせていたようなものだった。後半28分には投入された地主園からのクロスを手で合わせた押谷のシュートで1点を返して意地を見せるが、その後は守備を修正した北九州DF陣に地主園を押さえ込まれ、試合終了...。またしても...

3連戦で選手のコンディション(疲労)がピークに来ているだろう事は想像に難くない。しかし、岐阜が中3日なのに対して北九州は中2日のアウェイ。相手だってウチよりも疲れてるハズなんだよ? しかも、この1ヶ月間で北九州とは3回目の対戦なんだよ? つまり2試合分の対戦データがあったハズだよな? それで、どうして勝つ為の作戦を考えていないんだろう? スタッフは『スカウティング』って言葉、知ってるのかな? そして、守備の意識あるいは戦術ってのは、試合を重ねるごとに普通は修正されて良くなっていくモノのだけれど、どんどんと悪化しているのは、どうしてなんだろう? 得点しようと攻撃に意識を向けるのは悪いことではないと思うが、だからといって守備を放棄していいという訳ではないハズだ。ましてや、その意識を振り向けた攻撃ですら、得点が奪えないのであれば尚更だ。

試合結果を見ると、岐阜がシュート14本に対して北九州はわずかに5本。この5本で3点を決めた北九州と、14本撃っても1点しか決められなかった岐阜。ゴール前はしっかり引いて守り、かつ岐阜のミスを見逃さずにボールを奪おうと狙っている北九州に対し、いたずらにミドルシュートを撃って(あるいは撃つしかなくて)、しかもそれが殆ど枠内に飛んでいなかったような気がしている。今季のこれまでの総得点数が30に対し、総失点数は71と、その差-41。ちなみにワースト2位の岡山の得失点差が-18だから、どれだけ守備が崩壊しているかわかるというものだ。こんな攻撃と守備では、試合に勝てる訳がない。

また、以前から少し気になっていたのだが、どうやら今季のウチは「スローインからのプレーが雑すぎる」と今更ながらに気がついた。せっかくサイドアタックを仕掛けても、キックよりも正確かつオフサイドにならないハズのスローインで、相手にボールを簡単に奪われたり、もたもたしている間に守備を固められてしまうようでは、そりゃ相手は軽くクリアしてサイドに逃げるだろう。この辺りも...というか、ここまで最下位独走中だと、何から何まで問題点があるハズだし、そう思ってしまうのだが...(溜息)。

10月下旬の平日水曜日のナイターで、非常に寒い中、絶賛最下位独走中のチームを応援する為に、(僕も含めて)約2000人も観客が集まってくれたことを、選手やスタッフはどう感じているんだろう? 今回の試合内容を見たって、実力的に勝てない相手ではない(と僕は感じる)北九州に、3連敗してしまっただけ事実を、どう感じているんだろう? こんな試合内容だったにも関わらず、拍手はもちろんのこと、ブーイングや罵声すらも、多くのサポーターからは出てこないことについて、どう感じているんだろう? 身体も寒かったが、試合内容も寒く、心も非常に寒くなってしまった。

さて、今節の対戦相手は、現在2位と優勝&昇格争いをしている好調なサガン鳥栖。しかも、「相性」も良くない相手だ。だからといって、僕はハナから試合を諦めるつもりは全くないし、今日も「今節こそは勝つ!」と思って声援を送るつもりだ。そうやって思っている多くのサポーターに、チームとしての「気概」「意地」を見せて欲しい。(ささたく)

today's guest

サガン鳥栖

2010 J2 9位

J2通算対戦成績:1勝2分6敗

2011成績

第11節 11/06/25 鳥栖 2-0岐阜

2010成績

第1節 10/05/15 鳥栖 3-0岐阜

第3節 10/11/14 岐阜 0-鳥栖

2011J2 順位表 第7節 変則 勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の 戦績(岐阜から視点)

1	FC東京	64p	+38	55	17	A	H
2	鳥栖	60p	+30	53	23	A	
3	札幌	56p	+11	38	27	H	A
4	徳島	55p	+14	45	31	H	A
5	千葉	51p	+8	42	34	A	H
6	東京V	48p	+22	61	39	H	A
7	北九州	48p	-3	35	38	A	H
8	栃木	47p	+4	35	31	H	A
9	熊本	47p	-5	29	34	A	H
10	湘南	45p	+4	40	36	H	A
11	大分	44p	-1	35	36	H	
12	京都	43p	0	40	40	H	
13	草津	43p	-7	40	47	A	
14	愛媛	38p	-10	33	43	A	H
15	岡山	36p	-18	36	54	H	
16	水戸	35p	-8	33	41	A	A
17	富山	35p	-16	29	45	A	
18	横浜FC	32p	-14	33	47	A	H
19	鳥取	31p	-8	30	38	A	H
20	岐阜	19p	-41	30	71	---	---

次回 HomeGame

第3節 ザスパ草津戦

11/13(日) 13:00
@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

FC岐阜大好き通信(岐大通)
10/30号
編集発行:『岐大通』製作委員会
今号の製作担当: ささたく & 吉田 鎗造

編集子より
ご愛顧いただきありがとうございます。
今シーズンも「全ホームゲーム」での
発行を目標にしますので、よろしくお
願い致します。

(北九州戦の続きです)

実におもしろい試合だった。もちろん、いい意味ではない(苦笑)いろんな場面で好対照を演じていて、本当に興味深く、多くのことを思い知らされた試合だった。

シュート数が14本対5本。5本しか撃たれていないのに3失点。もっとも、たった1本のシュートを決められ、敗色濃厚だったホーム・ゲームもあったから、それは不思議でもなんでもない。ただ、いみじくも木村監督が湘南戦後に語ったとされる「いいクロスが入ったら、失点するのは仕方がない。」という状況を目の当たりにすることから始まったゲームだった。またもや、開始早々の失点だったが、前述のまさに目の前から放たれたクロスは実に鮮やかで、蹴られた瞬間「あ、やべ……」って思ってしまった。そして、このサイドからの鮮やかなクロスはウチにもあった。もちろん、唯一の得点に結びついた地主園のクロスがそれだ。対峙したマーカーに勝負を仕掛け、縦に振り切ったの高速クロス。そして、ドンピシャのタイミングで走りこんで合わせた押谷の技ありヘッド。「当てるだけだった」というが、瞬時にゴールやキーパーの位置を確認した上でシュートだったのではないかと、お金を払うだけの価値があるゴールだと思う。

さて、双方のクロス。どちらが上かといえば文句なしに地主園に軍配が上がるだろう。彼のクロスはマーカーとの勝負に勝つてのもの。逆に、北九州のクロスはまったくのどフリーな状態から放たれたものだから。なぜ、どフリーだったのか?というところ、マーカーに行く選手がいなかったからという当たり前の答えを言うしかない。いや、一人DFがいるにはいたが、付くでもなく離れるのでもない中途半端な位置で、あんなに余裕があれば「いいクロス」は蹴れるよね?プロだから。ゴールを決められた瞬間フラッシュバックしたのが、アウェイでの北九州戦。あの試合の決勝ゴールも、同じようにサイドでフリーにした選手からクロスを入れられての失点。あの時はグラウンダーのマイナスのクロスで、後ろから走りこんできた選手の足でのゴール。おまけに、サイドは逆と設定はことごとく違うんだけど、サイドでフリーしたことがすべて。そういや、対応したDFは同じだな(苦笑)。そして、前半の押谷の決定機。その前の洗いが外したのももったいなかったけど、押谷がアレを決めてくれたら……、と思う場面。そして、北九州の2点目も同じようなシュート。センターサークルを越えた辺りからの独走でGKとの一対一。両GKともボールに触れたが、一方は枠外に、もう一方は得点にと、これまた象徴的な場面。ロングフィードを追っかけて疾走、そのうえで相手DFに競り勝ったところで目一杯になった押谷と、自陣から数本のパスで岐阜の守備の混乱を衝き、余裕を持って蹴った17番との差が明暗を分けたというところか。それから、これまた同じようにバイタルエリアからの強烈なミドルを、決められなかった新井と決めてきた北九州の19番。その差はほんのわずかなことだろうが、彼らの結果は殊更に大きくなってしまった。

同じように、双方の指揮官も好対照。先制した余裕とはいえ小気味のいい効果的な交代をした北九州の監督。まあ、0-3になってからでは遅い、と思いつつ、でも、先制された以降は岐阜の流れだったとも言えるから、なかなか代え辛かったのかな?実際、地主園は結果を出したわけだから。ただ、アシスト以降の地主園にはマークが二人付くようになった。あれは、監督の指示か、それとも選手の判断か。点差があるゆえに成せたことなんだろうけど、その辺りにも順位の差が現れるのかなあ……。

そして、J's GOAL! に載せられた両指揮官のコメントの対比が、また興味深い。ウチは中三日の連戦だが、北九州はさらに短い中二日。エース池元の欠場を受けてのこととはいえ、スタメンは長身の2トップ。こちらのCBに高さがないのを把握しての選手起用。ただ、単にレギュラーを休ませ、フレッシュなメンバーに期待するという起用とは違ってくるのも当然か。実に、よく研究しているのがわかる三浦監督のコメントに比べ、木村監督のコメントはツッコミどころ満載。もちろん、インタビューの現場に立ち会ったわけではないし、どのようなやりとりがあったのかわからないから、内容をそのまま鵜呑みにするつもりはない。インタビューの意図もあるし、編集次第でどうにでも変わることは承知の上だ(この試合のインタビューは、特に意図があるような気がする(笑))。本音を語っていないこともあるんだろう。それでも、コンディションが厳しい選手たちに、より多くのモチベーションと勝利への欲求を与えることができたのがどちらだったか?ということは考えるまでもない。試合の入り方とか、セット・プレーとかの注意をしているのはわかる。実際には、もっと細かい指示もしているんだろうと思う。そう思いたい。しかし、

もう何回となく同じようなミスを繰り返す選手に対しては、もっと具体的な指示を与えなければならぬんじゃないか?明確な指示、投げ所を与えなければ試合中の選手はますます迷走し、いつそ負のスパイラルに陥ってしまう。ボクは、今まで三浦氏にあまりいいイメージがなかったし、これからも好転するとは思わないが(爆)、岐阜のようなクラブに必要なのはこういう指揮官なんじゃないか?と思わないでもない。「お金のあるなしではなく、気持ち。」こんなセリフをアツク語れる指揮官が。もっとも、こういう監督を呼んでくるには「お金が要る」でおしまいか?なんといっても、胸スポンサーがあるのとならないのでは大きく違う。それでも、木村監督の得意とする分野、手腕はもっと別のところにあるような気がする。結果を求められるプロのトップ・チームがそれかどうか。シーズンが終わったあと、いったいどんな総括が成されるのか。もっとも、それがどんなに厳しい内容であっても、来季もおつきあいしなきゃならないんだらうな、という思いでいっぱいだ。

湘南に惨敗した日。岐阜のU-18は長良川競技場で、古豪・横浜Fマリノス・ユースと接戦を演じた。惜しくも敗れたが、観戦した仲間によると「トップに見習わせたい試合。特に、ラインがキレイに統率された守備とか!」だそう。若い芽は確実に育っている。いずれ、トップに昇格する選手も出てくるだろう。出てくれなきゃ困る。そんな若武者たちを応援しに次節の新潟へ行きたいけれども、悲しいかな、鳥栖戦とカブってるんだよね……。これは、22日にユースの試合を見た観戦仲間からのまんま受け売りだけど、「子供たちに夢を!」というスローガンを掲げた大人たちには責任がある。その大人たちは、当然トップの選手もトップに関わるスタッフも含まれる。このまま、情けない成績で終わってしまったのはクラブの存在価値さえ揺らぎかねない。それは、ユースでがんばっている子供たちの、これからユースに入ろうという子供たちの夢を奪ってしまうということだ。そんなことが許されていいはずがない。

「このままじゃ終われねえぞ!」これは、FC岐阜に関わるすべての人の総意である、と信じている。(ぐん、)

【ユース】Jユースカップ情報

我がFC岐阜ユースU-18は現在「Jユースカップ」という大会に出場しています。10月22日(土)に昨年覇者の横浜F・マリノスユース相手に2対3と惜敗しましたが、もう一つの試合結果から得失点差の関係で現在4チーム中3位となっています(なんか嬉しい!)

そして今日は13時からアルビレックス新潟ユースとの対戦が、11月6日(日)には清水エスパルスユースとの対戦が、それぞれアウェイの地であります。新潟ユースは今年は北信越プリンス1部で2位、清水ユースはプレミアリーグEASTで3位(!)

の成績を収めている強豪チームです。世間的には岐阜ユースが「勝ちに行くぞ!」なんて言うのが笑われるかも知れませんが、若き緑の勇者達は間違いなく全力で勝ちに行くはず。ジャイキリを起こして、決勝トーナメントへ行こう! FORZA! FC岐阜ユース!! (シュナ)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休: 日曜日(今日はお休みです)

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>